

2026年3月29日 礼拝説教要旨

ヨハネによる福音書講解説教77「無理解の中で」

イザヤ53：1～4、ヨハネ14：8～14

本来わたしたちは神さまのところに行くことなどできません。ですからイエスさまは「わたしの行く所にあなたたちは来ることができない」（33節）と繰り返し言われます。それはわたしたち人間が神さまに対して罪を犯しているからです。けれども、そのようなわたしたちがこのように神さまを礼拝し、祈り、御言葉に聞くことができるのはイエスさまの救いによるものです。今日から受難週ですが、アダムから始まった人類すべての罪を赦すために、イエスさまは十字架の苦しみを引き受けてくださいました。十字架は、わたしたちの罪に対する神さまの怒り、呪いです。本来なら、罪を犯したわたしたちがその呪いを引き受けなければなりません。しかしそのわたしたちに代わってイエスさまが十字架で死んでくださった。そのようにしてわたしたちが負うべき神さまの呪いを引き受けてくださったのです。そして三日目によみがえられて、わたしたちを神さまの御前に生きる者として新しく生まれ変わらせてくださいました。

それゆえにわたしたちは神さまを礼拝し、神さまに祈り、御言葉に聞くことができます。神さまはイエスさまの十字架とよみがえりによって、わたしたちが罪赦されて、神さまに近づくことができるようにしてくださいました。それはひとえに神さまの愛、恵みということに尽きるでしょう。わたしたちのために大切な独り子をお与えになる。独り子を手放される。それほどに神さまはわたしたちを愛しておられます。イエスさまを見れば、わたしたちは神さまがいかになわたしたちを愛しておられるのかが分かります。

時々、わたしたちは神さまが分からなくなることがあります。例えば、試練にあって打ちのめされてしまう経験があります。そういう時に、神さまは本当にわたしを救ってくださっているのだろうか、神さまはわたしを愛してくださっているのだろうかと考え悩みます。でもそういう時にこそ、イエスさまに心を向けましょう。神さまは独り子であるイエスさまをお与えになられました。しかもそのイエスさまをわたしたちの代わりに十字架におつけになられます。それほどにわたしたちは神さまに愛されているのです。「わたしを見た者は、父を見たのだ」（9節）とイエスさまがおっしゃる通り、イエスさまの中に、父なる神さまを見る、神さまの愛を見るのが何より大切なことです。

けれどもイエスさまの一番近くにいた弟子たちはそのことが分かっておりません。弟子のフィリポが言いました。「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」（8節）「満足する」（アルケオウ）は「満たされる」「足りる」という意味があります。「そうすれば満足できます」というのは、彼は満足していない、満たされていないということでしょう。いつもイエスさまと一緒にいたのに満たされていなかった。もう一つヨハネ福音書でこの「満足する」という言葉が使われるところがあります。それは第6章の五千人の共食の箇所です。これもまたフィリポが言うのです。「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」（6：7）この「足りない」という言葉がこの「満足する」と同じ言葉です。五千人の人々を見てフィリポは二百デナリオンのパンでも足りないと言います。一デナリオンが当時の日当ですから、二百日分の稼ぎがあっても五千人の人たちは養えない。フィリポはそういう計算は早かったのかもしれませんが、すぐに計算して足りるか足りないか。フィリポは「足りない」と答えます。わたしたちもそういうことはないでしょうか。ただ現実だ

けを見て、あれこれ計算して「これでは足りない」と考える。そういう満たされない思いを常に抱えているのではないのでしょうか。

フィリポは計算高く、数字に強かったかも知れませんが、でも彼はイエスさまが共におられること計算に入れておりませんでした。自分たちで何とかしよう、調達しようと考えた。だから足りないと思う。それは今日のところで「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」(8節)と言ったところとも通じているように思います。彼は結局、イエスさまが見えていないのです。あの五千人の共食の奇跡を目の当たりにしたにもかかわらず、彼は何も分かっていません。イエスさまを計算に入れていない。だから満たされないのです。そこにわたしたちが満たされない一番の原因があるのではないのでしょうか。

「わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる」(12節)「もっと大きな業」これは満たされない、足りないということではなく、より豊かに、さらに増し加えられていくということでしょう。神さまが共におられるなら、わたしたちはすでに満たされているし、もっと大きな業、働きへと召されていくのです。それは人間的に見れば、依然と貧しく、弱々しいことなのかもしれません。教会もそうでしょう。決して豊かとは言えません。教会はいつだって貧しくマイノリティーなのです。けれどもこのような小さなものを用いて神さまはもっと大きな業を進められていくという約束です。足りないと嘆くのではなく、わたしたちは弱さの中にも神さまの恵みを見ることができるのです。イエスさまがパウロに「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮される」(Ⅱコリント12:9)と言われたことを思い起こします。

長老会だよりにアメリカの福音派のことを書きました。アメリカのキリスト教について専門に研究している方が、福音派のメガチャーチのことを書いていました。千人~二千人規模の教会です。さながらショッピングモールのような建物で、礼拝堂だけではなくスポーツジムやカフェ、ブックストアまで入っている。そこに行けば礼拝だけではなく、娯楽まで整っており一日中過ごせるそうです。そしてそこで語られるのは「成功、繁栄の福音」です。人生の成功を神さまの祝福のしるしとする。数や力がもてはやされます。ここで違和感を感じることができる人は正しい信仰の感覚を持っています。というのは、本来、福音とはそれと真逆のことを言うからです。成功や繁栄ではない。「主は豊かであったのに、わたしたちのために貧しくなられた」(Ⅱコリント8:9)何よりもイエスさまは、貧しい馬小屋に生まれ、わたしたちのために十字架で死んでくださいました。ご自身の命を注ぎ尽くして、この小さな器を神さまの恵み、愛で満たしてくださいませ。わたしたちは、この溢れ出る神さまの愛によって、もっと大きな神さまの救いの御業へと遣わされるのです。

天の父よ。イエスさまの中に神さまの愛、御業が見えていない無理解があります。そのわたしたちの無理解のためにイエスさまが十字架で死んでくださいました。そして信仰の目を開いてくださいませ。今日から受難週です。十字架のイエスさまの中に父なる神さまの愛を見る信仰を養ってください。主の御名によって祈ります。アーメン。